



八カセ

玉手ねこ

法史の玉手箱

法務史料展示室だより

第32号

法務史料展示室は、現在法務省が所蔵する史料を閲覧に供し、わが国の法や司法制度への理解を広めていただく場です。展示室への興味をより強くもっていただけたらという気持ちをこめて、展示室だよりを発信しています。

猫と博士の史跡散歩

東京の街と歴史に詳しい玉手ねこが、法史学者の八カセと一緒に、東京の史跡を案内します。

第1回目は、駒込駅から本郷三丁目駅まで、本郷通りを真っ直ぐ歩きます。

①六義園



徳川五代将軍綱吉の側近だった柳沢吉保が、加賀前田藩の下屋敷跡を譲り受け、自らの下屋敷として作り上げた大名庭園だよ。



綱吉の時代と言えば「生類憐みの令」が有名じゃ。かつては「天下の悪法」と言われていたが、最近はその意味や実態を見直そうとする学説も出てきており、評価が変わるかもしれないのよ。



③吉祥寺



明暦三年（一六五七）の明暦の大火で江戸の町が焼けてしまった後、駿河台のあたりから今の場所に移ってきたんだ。大きな山門は享和二年（一八〇二）、参道に建つ経蔵は文化元年（一八〇四）の建立で、寺内にあった学寮旃檀林は、今の駒澤大学の前身だよ。



寺内には、天保の改革で江戸南町奉行として活動した鳥居耀蔵や、幕臣として戊辰戦争を戦い、維新政府で政治家になった榎本武揚のお墓があるのじゃ。



吉祥寺には、八百屋お七とその恋人吉三郎の比翼塚もあるよ。お七は八百屋の娘で、天和二年（一六八三）に起きた江戸の大火でお寺に避難してその小姓と恋仲になり、また火事になればその小姓と再会できると考えて、自ら放火事件を起こしたとされているんだ。井原西鶴の『好色五人女』では、この吉祥寺が、お七と小姓吉三郎が恋に落ちた舞台になってるんだよ。



実はお七の話にはいくつかの説があって、白山の円乗寺で小姓佐兵衛と恋に落ちたとも言われている。江戸時代には、木と紙でできた町家を廃墟にしてしまう放火犯は、とても重い犯罪とみなされ、結局、火刑に処せられたのじゃ。



②駒込富士神社



富士山に見立てた小さな丘の上に拝殿があるよ。江戸時代に流行した富士信仰の拠点の一つだったんだ。

④駒込土物店跡



江戸時代には神田・千住と並ぶ青果市場で、ここでは駒込名産の茄子をはじめ、たくさんの野菜が売られていたんだよ。この茄子と駒込富士神社②、その近くにあった鷹匠屋敷を合わせて、川柳で「駒込は一富士二鷹三茄子」と詠まれたよ。



初夢で見ると縁起が良いという「一富士、二鷹、三茄子」が一般に言われるようになったのは、江戸中期頃のことじゃよ。その頃から、語源についてはいくつかの説があったんじゃが、徳川氏に縁のある駿河国の名物を順番に挙げたのだと考える説が有力じゃ。



⑤高林寺



ここには蘭学者の緒方洪庵の墓碑が建ってるよ。洪庵は、福澤諭吉や大村益次郎の先生だよ。



洪庵は大坂適塾で蘭学を教えながら、コレラの治療など医療にも力を尽くしたのじゃ。

⑥かねやす



本郷三丁目交差点に今もある、かねやす小間物店は、江戸時代の川柳に「本郷もかねやすまでは江戸のうち」と詠まれたことで有名になったんだ。



この川柳は、徳川八代将軍吉宗が主導した享保の改革を支えた大岡忠相が、かねやすから南の家屋は火事対策として土蔵造塗屋・蠣殻葺きとするよう命じたことに由来するんじゃ。幕府の火事対策は、他にも火消の整備・火除地や広小路の確保・放火犯の厳罰化などがあったんじゃよ。





「小原重哉と監獄則」

第1回の本欄では、現在、法務史料展示室（法務省赤れんが棟）の企画展示「小原重哉と近代監獄制度」で取り上げられている内容を中心に、Q & A形式でご紹介します。

Q 小原重哉って、何をした人？

A 全国的に施行された日本で初めての行刑法として知られる、明治5年(1872)の「監獄則并図式」を起草したことで有名です。また、その後も明治10年代を通じて監獄制度に関与し、その西洋化・近代化に寄与しています。

Q なぜ、小原は監獄制度の改革を志したの？

A 岡山藩に生まれた小原は、幕末に新撰組の隊士を殺害するなど、政治活動に関わっていました。その過程で3度、施設に拘禁されるのですが、そうした自身の体験がきっかけとなって獄制改革を志したとされます。

Q 「監獄則」によって、制度はどう変わったの？

A それまでの日本では、江戸時代から続く伝統的な処遇が行われていました。そうした中、小原は、イギリスの植民地であった香港・シンガポールで現地の施設を参観し、その内容を「監獄則」に取り込んでいます。つまり「監獄則」は、西洋的な監獄制度へと舵を切る、その第一歩であったといえるでしょう。例えば、現在の刑務所と拘留所のように、有罪判決の前後で収容施設を区分したことも、その成果の一つです。

Q 「監獄則」に掲載されている絵は誰が書いたの？

A 小原は後年、美術展の審査員を務めるなど、高名な画家でもありました。「監獄則」に掲載された絵図には、そうした小原の画才が活かされています。明治・大正期の日本では、十字型の監獄が多数建設されますが、その発端は、「監獄則」に記された小原の絵画だったのです。

法諺あれこれ

金請けするとも人請けするな

金銭債務の保証はしてもよいが、身元保証人にはなるな、という諺。江戸時代、様々な契約において「請人」（うけにん）を立てることが求められました。例えば金銭消費貸借ならば、保証債務は主たる債務に従って定まりますが、奉公人の請人となると、万一その奉公人が雇主に損害を負わせた場合、請人の責任はそれこそ無制限でした。このように江戸の身元保証人の責任は甚だ重く、中期以降はその実質が失われ、架空の請人で形式だけを整えることもあったといえます。

暦のなかの法

明治4年(1871)7月9日、司法省が誕生

法務省の前身である司法省は、明治4年7月9日に発足します。それまでの司法権は複数の機関によって分掌されていたために、混乱が生じていました。例えば、行政監察権や訴追権、巡察権などを担う弾正台と、司法行政や刑事裁判、司法警察などを管掌する刑部省の間には、権限の管轄をめぐる対立が生じ、深刻な問題となりました。このような状況を打破し、司法権の統一を目指したのが、のちに初代司法卿となる江藤新平です。彼は、中央政府による司法権の一括的な掌握を企図し、司法制度の構想を積極的に献策します。このような江藤の努力もあり、明治4年7月29日に行われた太政官制度の改革に先んじて、同月9日に司法省が創設されます。その職務は、司法行政・法律解釈・刑事裁判・民事裁判・司法警察の管轄などと定められ、中央政府内で唯一の司法機関として、わが国の近代化に重要な役割を果たしていくこととなります。

法務史料展示室だより第31号の歴史の壺クイズの答は『1』番です。